

2021年9月13日

学生を主体に、より充実した柔軟な学びの提供——

学士課程における副専攻プログラムの創意と実際

～ 第二の専攻分野／脱学部学科制／教学 M／単位数と修了要件／認定証書の授与 ～

【10月11日（月）オンライン開催】

ご参画・ご派遣のお願い

ユニバーサル期の新・大学学士課程のカリキュラムについて、小会としては、次の基本シナリオを提起して参りました。

- ・脱・学部学科による教員組織と学生（教育）組織を分離する。
- ・授業科目は厳選し、絶えずスリムなラインナップに努める。
- ・専任教員が担当できるコア科目で構成し、どうしても必要となる科目は兼担・兼任講師又は他大学の通信受講に委ねる。
- ・一般教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群での基本構成とし、そのウェイト付けが個性となる。
- ・学生には、主専攻、ダブル主専攻、主専攻・副専攻の3パターンでの履修を提示する。主専攻の最低ラインは40～50単位、副専攻は20～30単位か。
- ・上記で構成されるカリキュラムを、本学部固有の特色・個性としてPRする。

上記により、“学生を主体に、より充実した柔軟な学びの提供”を実現可能とする教学マネジメントのインフラ構築となります。

その際、重要となるのは学問系列、課題解決・地域研究系列による科目群の設計となります。カリキュラム再構築のステップ段階において、“副専攻”コンセプトの創意工夫が肝要かと考えます。

新・大学カリキュラムの参照例としては、やはり、筑波大学と国際基督教大学（ICU）といえましょう。筑波大学は9学群・24学類・42主専攻、ICUは8領域（デパートメント）・31メジャー（専修）が全体設計となっております。

本セミナーにおいては、基調講義を清水一彦氏に論展いただき、4大学のコアパーソン各位に副専攻のケース・スタディをご報告いただきます。

第1講は、清水一彦氏から、新構想大学として創設した筑波大学の50年余の試行・挑戦と再構築を踏まえ、新・学士課程のカリキュラムモデルについて論展いただきます。

第2講は新潟大学の神田氏と竹岡氏から、本年度からスタートした「全学分野横断創生プログラム（NICE）」について、「学修創生型」・「パッケージ型」のマイナープログラム、2004年度から行っている「オナーズ型マイナー（副専攻プログラム）」の3つのカテゴリーについて、概要や取組み状況、今後の課題と展望について、ご講義を賜われます。

第3講の聖心女子大学の植田氏からは、主専攻に加えて“もう1つの学科”を系統的に学修できる副専攻として、学科がカリキュラム提供するもののほか、学科横断的なテーマを多角的な視点から追及する「総合リベラル・アーツ副専攻」、2019年度からスタートしグローバル共生研究所で開設した科目を中心に演習が必修の「グローバル共生副専攻」の3つについて、それぞれの特徴や課題と今後について、ご講義を賜われます。

第4講は敬愛大学の森島氏からは、文理融合人材の育成に向け2019年に開設された副専攻「AI・データサイエンス」、国際空港を有する千葉県に立地する特色を生かした副専攻「エアポートNARITA地域産業学」、体系的なカリキュラムで日本語教育だけでなく国際関係などを幅広く学べる副専攻「日本語教員養成課程」の3副専攻の取組みと実際について、ご講義を賜われます。

第5講の立教大学の井川氏から「グローバル教養副専攻」について、「Arts & Science」・「Language & Culture」・「Discipline」の3コースとそれぞれに係るテーマの概要と修了要件となる「海外体験」の実際、新型コロナウイルス禍における対応、さらに、「Discipline」コースのテーマの一つ「データサイエンス」の具体的な取組みについてご講義を賜われます。

◇ ご案内パンフレット（開催日程・各講義の講義項目など詳細を掲載）

 <http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/211011.pdf>